

2009年10月28日

東京ガス株式会社

2010年3月期 第2四半期決算説明会 主なQ&A

Q1：工業用ガス販売量は、回復基調にあるとのことだが、どの程度回復がしてきているのか。また通期での見込みは？

A1：工業用ガス販売量は発電用・一般工業用ともに4月～6月の3ヶ月よりも7月～9月の3ヶ月の対前年同期比ガス販売量の落ち込みが改善している。特に発電用においてはほぼ前年並みの水準まで回復してきている。  
下期についても、お客様の稼働想定に基づき、対前年では6%増の販売量を見込んでいる。

Q2：第2四半期の家庭用ガス販売量が対前年で減少しているが、気温が高かったこと以外の影響要素があるのか。通期での見通しは？

A2：気温要因による影響に加え、省エネ気運の高まりによる影響もあると受け止めている。この傾向が本年度内は継続すると見込み、下期の見通しを下方修正している。今後もガスを有効にお使いいただくために、ライフバルによる営業力強化、エネファームと太陽光・太陽熱などを組み合わせた環境対応型のエネルギーシステムの開発販売を強化していく。

Q3：エネファームの販売目標台数を1,500台から2,100台に期中で上方修正しているが、目標は達成できそうか？

A3：10月14日時点で、エネファームの販売台数は1,050台であり、年度目標のほぼ半分であることから、年度の目標は達成できる見込みである。

Q4：SOFCの開発状況は？

A4：2004年より東京ガス、京セラ、リンナイ、ガスターの4社体制で共同開発を推進しており、高い発電効率と高品位な廃熱が期待できるSOFCコージェネレーションシステムには将来の家庭用のみならず業務用や産業用といった各分野で環境性・省エネ性両面で競合力強化につながるものと期待している。

Q5：LNGの価格改定交渉等の今後の原料費見通しへの影響は？

A5：LNG価格改定交渉は順調に進展しており、価格改定影響によって当初の想定から大きく原料費が変化するリスクはないものとみている。